

今週（2月8日から2月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間が終盤に入った事で、強い調達ニーズがより一層強まる展開となった。無担保コールO/N物は、邦銀勢の調達を中心に▲0.025～▲0.003%の出合いが見られた。無担保コールO/N加重平均レートは、週を通して▲0.01%前後と極めて浅いマイナス圏で推移した。ターム物に関しては、1W～2W物を中心に▲0.02～▲0.005%近辺での出合いが散見された。日銀当座預金残高は、週を通して大きな変動はなく480兆円台後半で推移した。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、▲0.090～▲0.075%程度のレンジで推移した。週初8日のGCT/Nは▲0.090～▲0.080%程度、9日は▲0.090～▲0.075%程度、10日は▲0.090～▲0.080%程度、12日は▲0.085～▲0.075%程度で推移した。

SCは、個別銘柄では2Y410～421、5Y140～146、10Y340～361、20Y170～175、30Y59～69、40Y8～13等、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、買入オペの応札倍率が3倍近くとなり、業者の在庫保有が意識された。その一方で、3M物で▲0.105%近辺、6M物で▲0.110%近辺出合いと、レートは横ばい圏で推移した。1Y物は動意に乏しく、閑散であった。9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.103～▲0.101%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1048%、按分落札利回▲0.1027%と、順調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.110～▲0.108%での出合いと堅調に推移した。

短国買入オペは、8日に実施される予想が多かったものの、地合いが堅調であったからか、10日に実施された。金額は15,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.004%、按分落札利回較差+0.003%と、やや弱めな結果となった。

12日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.098～▲0.097%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0979%、按分落札利回▲0.0949%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.105%出合いと堅調に推移した。

●CP市場

今週は、10日、15日発行にあたり、建設・陸運業態で大型発行が見られた。全体的には案件が少なく、比較的閑散とした週となった。週間の金額ベースでみると、3,300億円程度の償還に対して、3,000億円程度の発行と償還超となった。市場残高は、先週とあまり変わらず、25兆円台前半の推移であった。引き続き投資家の需要は強く、マイナス圏での出合いが中心となった。特に、稀少銘柄では、オペの按分レートを下回る出合いが見られた。

9日にはCP等買入オペが、予定通りの6,000億円でオファーされた。足下の発行は少ないものの、直近の按分レートがほぼ固定となっており、結果は按分レート▲0.034%と前回比横ばいとなった。平均レートは▲0.022%と前回(▲0.028%)から上昇しており、一部に強い売りニーズがあったとみられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/8 (月)	29,388.50	0.065	105.51	△ 0.011	△ 0.086	4,859,400
2/9 (火)	29,505.93	0.065	104.92	△ 0.010	△ 0.085	4,856,800
2/10 (水)	29,562.93	0.075	104.61	△ 0.008	△ 0.087	4,861,200
2/11 (木)						
2/12 (金)	29,520.07	0.060	104.85	△ 0.011	△ 0.083	4,869,900

来週（2月15日から2月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/15 (月)	10-12月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 12月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				New York祝日 (Presidents' Day)
2/16 (火)	12月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	5Y 25,000億円 2/17発行	国有林野借入 959億円 2/25借入		10-12月期のユーロ圏GDP2次速報
2/17 (水)	12月の機械受注統計(内閣府 8:50) 1月の貿易統計(財務省 8:50)				12月の米企業在庫 1月の米生産者物価指数 1月の米小売売上高 1月の米鉱工業生産・設備稼働率 1月の英消費者物価指数
2/18 (木)		TB1Y 35,000億円 2/22発行	20Y 12,000億円 2/19発行	交付税借入 10,500億円 3/2借入	1月の米住宅着工件数
2/19 (金)	1月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 67,000億円 2/22発行			1月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/15 (月)	100	59,000	59,100	CP買入 国債補完	▲ 900 1,100	6,000	6,200	65,300	源泉税揚げ 年金定時払い TB3M発行▲67000償還49700 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲2500 個人向け3Y・5Y償還400
2/16 (火)	0	1,000	1,000				0	1,000	
2/17 (水)	▲ 1,000	▲ 29,000	▲ 30,000				0	▲ 30,000	労働保険料揚げ 5Y発行▲25000
2/18 (木)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	交付税借入▲10500期日10000
2/19 (金)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	20Y発行▲12000
週間合計	▲ 2,900	27,000	24,100	—	200	6,000	6,200	30,300	

2/15は日銀予想、2/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日までは概ね横ばい圏で、高い水準での取引が見込まれる。16日以降の積み期間序盤はレート水準が低下する事も考えられるが、その後は徐々に上昇すると予想される。基準比率が減少する（1月積み期間13.0%→2月積み期間11.5%）が、新型コロナオペによってマクロ加算残高が増加していることもあり、あまり影響は無いと考えられる。レポ市場は、GC T/Nは▲0.09～▲0.07%程度での推移を予想する。短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、16日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、特段の要因は無いが、レート動向に注目したい。

主要なイベントは、国内では15日に10-12月期のGDP1次速報、19日に1月の全国CPI、海外では16日に10-12月期のユーロ圏GDP2次速報、17日に1月の英消費者物価指数が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入